

2013年11月ハイエン台風による高潮による被害把握の調査を行いました

(2014/5/26-6/2)

テーマ：ハイエン台風，高潮浸水領域，学校被害

場所：フィリピン，レイテ島

平成25年11月8日に発生したハイエン台風によって、フィリピンのレイテ島は、甚大な被害を受けました。特に、台風によって発生した高潮は、沿岸付近で3-5mの高さとなって集落を襲い、被害を拡大させました。発災後から現在までに、災害科学国際研究所や他の研究機関などによって、多数の被害調査、復旧・復興に関する調査が実施されてきました。しかし、被害が二番目に大きかったタンアウン町では、まだまだ研究機関や政府機関による被害把握はされていませんでした。本調査では、平成26年5月26日から6月2日まで、レイテ島のタンアウン町を中心にハイエン台風による高潮浸水限域把握と学校被害の現状について聞き取り調査を行いました。本調査には、災害科学国際研究所の保田真理助手（災害リスク研究部門）、イ・ケリーン助教（地域・都市再生研究部門）サッパシー・アナワット准教授（寄附研究部門）の他にタクロバン市役所都市計画担当者も参加しました。

学校の被害調査に関しては、災害の種類による被害の状況を学校の先生や、地域住民からヒアリングを実施しました。どの学校も被害は大きく、特に高潮被害で亡くなった子供たちが多いことが分かりました。修復は、ユニセフ、国際NGO支援に頼っている状況でした。また韓国軍による校舎の修理がかなり進んでいることが分かりました。まだ多くの学校で、校舎の屋根はテントを張り付けている状況です。

6月2日から新学期が始まったのですが、教科書の支給が遅れている状況の中で、生徒たちが授業を受けることになることもわかりました。また、あらたな台風で被災してしまう学校も多く存在し、途上国の負の連鎖をいかに防いでいくのか、我々が知恵や技術の提供をし、彼らの意識を向上させる必要性を強く感じました。

今回の調査後には、タンアウン町の役場を訪問し、調査結果と防災計画に関して、都市計画担当者と議論をしてきました。さらに、国際連合人間居住計画（UN-HABITAT）の都市計画担当者、タクロバン市役所都市計画担当者と今回の調査結果に関して議論を行いました。今後、今回の調査結果の詳細をレイテ島の各被災地の担当者に報告する予定です。

今回の調査は、災害科学関係人材育成助成金、災害科学国際研究所所長裁量経費と東京海上日動による寄付金の支援を受けて行われました。



学校被害の様子



ヒアリング調査の様子

文責：保田真理（災害リスク研究部門）
イ・ケリーン（地域・都市再生研究部門）
サッパシー・アナワット（寄附研究部門）